指定管理施設・出資法人調査特別委員会　現地調査活動状況

１　日時　令和６年８月２日

２　出席委員

委 員 長　　浅川　力三

副委員長　　長澤　　健

委　　員　　石原　政信　　中村　正仁　　小沢　栄一　　大久保　俊雄

久嶋　成美　　清水　喜美男　　佐野　弘仁　　志村　直毅

３　欠席委員　なし

４　調査先及び調査内容

（１）　山梨県立中小企業人材開発センター【指定管理施設】

〇調査内容

問）　技能五輪は技能者あるいは技術者の一つの成果指標だと思うが、昨年度山梨県から技能五輪に派遣があったか。また、ここ２～３年で日本または県内から世界大会に参加したか。

答）　技能五輪には毎年参加させていただいている。特に貴金属装身具については、平成の頃には、全国１位となり国際大会にも出場したことがある。近年でも宝石美術専門学校の生徒や卒業生が受賞・入賞している状況。今年度は、とび、普通旋盤、建築大工に参加する予定で、若い力が活躍している。

問）　技能五輪や世界大会に向けて現場レベルでどのようなことを技能者に対して訓練していくと成果につながるのか。山梨県は他とは違うことをやっているということや県独自で取り組んでいることがあれば聞きたい。

答）　まずは、企業の協力が第一というところ。訓練をするには経費もかかってくる。企業の努力に頼るしかない。

問）　例えばＩＴ関係など、他県に比べて、山梨県が進んでいるところはあるか。

答）　技能検定の職種は１２０以上あるが、ＩＴ関係などは技能検討の職種に入っていない。技能検定は、昔気質の基礎的な技術を奨励し伝承するというもの。山梨では、特に貴金属装身具について、宝石美術専門学校の創設の頃は技能検定に挑戦する方が少なかったが、近年、貴金属装身具の２級に関しては、学校を挙げて生徒が受けるようにしてくれている。建築大工でも若い人が技能五輪に出るなどの勢いがある。

問）　高校の頃、施工管理技士の試験を東京に受けに行った。山梨で受講と時間のロスが少ない。最近人材不足で資格を取ろうとする人が多い。今後も是非そういった視点で取り組んでいただきたい。

問）　講師の派遣のところで、品質管理やＩＴ、プログラミング等、どういう分野の講師がどのぐらいいて、その実績がどうだったのかというところをお尋ねしたい。

答）　人数は今分からないが、管理監督者や中堅社員、新入社員の講師派遣については、当協会の職員がトレーナーを取得し、講師として講座に携わっている。また、企業からの講師派遣の依頼があり、企業に出向いて講座を実施しているところである。その他の取得講座については、専門分野の方々に講師をお願いしている。

問）　今後の方向性について、資格取得講座のところに品質管理３級とあるが、この資格には２級１級もあるし、土木施工もあるし、プログラムもある。もっと高みを目指した計画にも、取り組んでもらいたい。

答）　専門の方々と相談し、上を目指す講座作りに毎年取り組んできている。さらに開拓しながら講座内容を深めていく。

問）　人材不足が顕著なので、技能検定の受検促進を図るためには、組合や協会を通してあまねくＰＲを行うと効率的に、合理的にできるのではないか。

答）　現状、組合や協会と一緒に取り組んでいるところ。技能検定は、当協会だけではできない。団体と共同して受検勧奨を行ったり、団体で事前に講習を行い技能検定に臨んでもらうなど、相互関係を持って実施している。様々な組合と一緒に受検者の確保や合格率を上げるような取組をしている。

問）　すぐ近くにリニアの駅ができる計画があるが、リニア開通した際に、新しい事業を実施する計画や開通に向けて取組があれば教えていただきたい。

答）　職業能力開発ということでいろいろな人材育成があるが、各講師と相談しながら新しいものに向かって取り組んでいく。また現在スリーアップの関係でキャリアアップユニバーシティも我々に託されているので、あらゆる講座を通して従業員のスキルアップにも取り組んでいきたい。

問）　経営状況説明書の令和５年度を見るとセンターの収支差額がマイナス１６万円ほどあるので、内容の説明をお願いしたい。

答）　収支状況ではマイナスとなっているが、施設利用料の９８６万５，２５０円が、利用計画の９０４万２千円を上回ったことから、その差額の２割を、県に納入するという協定になっており、

その協定に基づき納めていただく金額が１６万４，６５０円となっている。

問）　平成２３年度から山梨県職業能力開発協会に山梨県立中小企業人材開発センターの運営を受けていただいてから、大会参加者が非常に増えた。特に平成３０年度、令和元年度に関しては１００名以上が参加していただいている。人材自体は緩やかに減少傾向だと思うが、何か工夫や努力をしていただいているのか。

答）　技能五輪は２３歳以下が対象となる。技能五輪だけを専門にやるのではなく、年代で対象となる。本人たちは技能五輪に出場するつもりがなくても、年齢が当てはまるから大会に参加している状況で、対象者が増えてきている。最近高校生でも２級の試験を受ける方が増えており、企業も若い力を育てようと一生懸命協力してくださっている。

問）　指定管理施設の管理体制としては７名とあるが、協会自体の職員はどのくらいいるのか。

答）　協会には他の事業で技能検定、人材育成、認定職業訓練校の事務担当もおり、センターを管理する７名に加え、１０名の職員がいる。協会事業では、技能検定、人材育成、認定職業訓練、若年技能者人材育成等の事業を行っている。

問）　中小企業人材開発センター・職業能力開発協会とアイメッセ山梨の役割分担はどのようになっているか。

答）　中小企業人材開発センター・職業能力開発協会は働く方々の知識や能力を高めていくことを目的とし、人事育成や資格取得の部分を担っている。アイメッセ山梨はおそらくあらゆる分野における調査研究を行っていると理解している。

問）　令和５年度の事業収支、令和６年度事業収支と収支予算についての資料をいただきたい。

答）　用意する。
（現地調査終了時に、各委員に配付された。）

問）　山梨県全体の利用者の合計はあるが、地域ごとに見て、郡内ではどの程度の利用者があるか。

答）　地域ごとにはカウントしてないが、かなり低いと思う。

問）　もう少し工夫していただけたら郡内からの利用者が増えると思うが、どのようにすれば良いと思うか。

答）　利用者を増やすとなるとやはり講習の内容が重要になる。人材開発センターには講座事業もあるが、団体による、法令に基づく講習会や組織のための研修などがあるので、そういったところで郡内の方でも足を運ばれている。また新山梨環状道路ができたことで、利用者も増えている。

今後、団体とも相談しながら使用しやすいよう取り組んでいきたい。

問）　郡内では、商工会関係から資料はいただくが、なかなか知る機会が少ない。さらなるＰＲや、郡内から参加しやすいような状況・環境を作っていただけるとありがたい。

※中小企業人材開発センター３階視聴覚室において説明、質疑を行った後、現地視察を行った。

（２）　（公財）山梨県子牛育成協会【出資法人】、山梨県立まきば公園【指定管理施設】

問）　繁殖センターも備えているということで、今年度は繁殖率が９８．２％という高い水準だが、毎年そのぐらいの数字か。

答）　近年、ほぼ同じ９割台後半を維持している。人工授精、受精卵移植は全て当協会職員が行っており、胸を張れる仕事であると自負している。

問）　とても御尽力いただいている数字と思う。近年の猛暑で牛の管理と人工授精等での苦労があれば教えてほしい。

答）　搾乳や子牛の出荷をしていないので、一般農家ほどの明確な影響はないが、気をつけて管理していきたい。

問）　預託に力を入れているということだが、実際個人で酪農家の方が管理するのが大変ということなのか、それとも協会で預託に力を入れているということなのか。預託のニーズが増える中で、必要な施設を導入するなど、力を入れているのか。

答）　まず、ここでは採算性のとれないことをやっていることを御理解いただきたい。ミルクを絞って稼ぐ、肉牛を出荷して稼ぐ、もしくは子牛を出荷して稼ぐ、そういうことの前の段階の仕事をしている。そのような中、施設は老朽化しているが、限られた予算の中で優先順位をつけて修繕のための予算要求をしている。

問）　酪農家を助けるということで、非常に公益性があると改めて感じた。知らないことも多いので、また勉強させてもらいたい。

問）　近年、肥料・飼料が非常に高騰しているが、牛の受入れが多くなれば経費がかかると思うが、何か対策はしているか。

答）　一般の農家であれば、国の配合飼料価格安定基金制度という制度があるが、協会は生産者ではないので利用できない。令和４年度、令和５年度については、飼料等の価格高騰により発生した費用は追加で県に交付していただいている。

問）　受託頭数について乳用牛３８２頭、肉用牛３５１頭とあるが、その比率や甲州牛の需給体制について教えていただきたい。

答）　当初甲州牛は年間３００頭だった時代から、現在は５８０頭前後の甲州牛を生産している。需要と供給のバランスについてはちょうど良いバランスではあるが、中にはもう少し甲州牛を増やしたいという旅館・飲食店もあり、また今後、輸出を考えると、増産をしなければならない。一

方で農家の高齢化等の課題もあるので精査し、対策を講じていきたい。

問）　核移植の技術開発等も取り組んでいるのか。

答）　子牛育成協会で行っている技術開発は、人工授精になる。県の畜酪技術センターではさらに甲州牛の年間頭数を増やすための試験研究をしている。

問）　妊娠牛として売却すると価格も上がると思うが、そこは別の機関とタイアップしているのか。

答）　そうである。

問）　技術職が７名とあるが、技術とは何か。

答）　職員２４名中、技能労務職も含めた２２名が人工授精を行うことができる。技術の平準化に努め、受精卵移植についても、獣医師以外も受精卵移植の免許を取得するなどしている。

問）　妊娠牛とそうでない牛の売却単価は違うのか。

答）　令和元年度にヨーネ病という病気が発生して、それ以降妊娠牛は販売していない。現在の子牛の売却価格は雄が３０万円の後半、雌が３０万円の真ん中の前半ぐらい。妊娠牛は以前行っていた頃で４０～５０万円程度だったと思う。妊娠牛の売却は、全国的にも珍しいと言われている。

問）　全国的に珍しいということは、付加価値をつけられるということで、事業として良いテーマと考える。そのためにも、繁殖率９８．２％をもっと上げることは重要だと考えるので、御尽力いただきたい。

問）　正味財産増減計算書の中で飼料費が４１万９，５４６円減になっていることについてお聞きしたい。

答）　３，０００万円のうちの４１万９，０００円なので、飼料価格については高止まりの状態と認識している。

問）　ばらつきの範囲であると理解した。その上で、牧場管理業務費が減っていることについて何かあるのか。

答）　定年を迎えた職員が再雇用になったことが大きい。

問）　飼料価格、原材料価格が非常に高騰しているが、今年度も臨時交付金が、出せるのかどうか、今の見通しはどうか。

答）　飼料価格等の高止まりによる経費増加分については、財政課と協議のうえ、これまでのような追加補填ができればと思っている。

問）　まきば公園の来園者数はどのように算出するか。

答）　車の台数に人数と係数をかけて計算している。

問）　台数にかける係数が分かれば教えてほしい。また、駐車場に来ている台数は、レストランと分けているのか。

答）　レストランの客とは分けていない。係数は、平時は、１．０４×２．２人、ゴールデンウィーク中は１．１４×２．５人、夏休み中１．０４×２．５人となっている。

※山梨県子牛育成協会監視舎会議室において説明、質疑を行った後、山梨県子牛育成協会及び山梨県立まきば公園の現地視察を行った。